

參考資料

9. 参考資料

参考1

① 大阪のまちづくりグランドデザイン

『大阪のまちづくりグランドデザイン』において、夢洲・咲洲エリアのまちづくりは、『世界で存在感を発揮する拠点エリア』の
として位置付けられ、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市 令和4（2022）年12月策定）

戦略1) 成長・発展をけん引する拠点エリアを形成

1) 世界で存在感を発揮する拠点エリア

広域的な鉄道や高速道路などの都市基盤が充実し、高次都市機能が集積している大阪の「都心部」や、空港、港湾などから世界・アジアとつながる「ベイエリア」において、国際的な業務や観光、交流機能等を備えた、国内外から多様な人々を呼び込む、世界で存在感を発揮する国際競争力を備えた拠点エリアを形成

夢洲・咲洲エリア

・2025年に開催される大阪・関西万博のインパクトを活かした、夢洲での国際観光拠点の形成や、研究開発施設が集積する咲洲、スポーツ・レクリエーション施設を有する舞洲をはじめ、天保山・築港、此花西部、鶴浜などとの連携強化により臨海部全体の魅力向上を図るとともに、都心部との鉄道や道路、舟運などの多彩なアクセスを実現することにより、都心部と臨海部が両輪となって大阪の成長をけん引する国際観光・国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざします。

- 国際観光拠点の形成
- 大阪港における国際コンテナ戦略港湾としての機能強化
- 人・モノ・情報の交流拠点の形成
- スマートなまちづくり
- 交通アクセスの強化・利便性の向上による周辺臨海部・都心部との連携強化



夢洲・咲洲エリア



世界で存在感を発揮する拠点エリア

出典：大阪のまちづくりグランドデザイン

9. 参考資料

参考2

② 大阪都市魅力創造戦略2025

- 「魅力共創都市・大阪 ～新たな時代を切り拓き、さらに前へ～」をめざす姿として、3つの基本的な考え方のもと、10のめざすべき都市像を定め各種施策を推進する。夢洲においては、10のめざすべき都市像のうち、「大阪ならではの賑わいを創出する都市」として、「世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信」を図ることとしている。

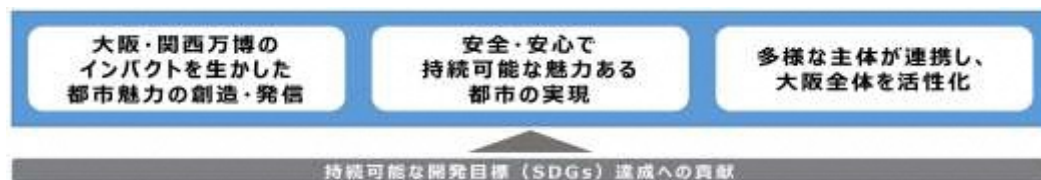
大阪都市魅力創造戦略2025（大阪府・大阪市 令和3（2021）年3月策定 令和5（2023）年、6（2024）年一部改訂）

重点取組の1つとして「世界第一級の文化・観光拠点の進化・発信」に取り組む。

＜大阪ならではの賑わいを創出する都市＞

世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信

・IRを契機とした夢洲における国際観光拠点の形成



出典：大阪都市魅力創造戦略2025

③ 大阪市未来都市創生総合戦略（令和6年度～令和10年度）

- 「大阪市未来都市創生総合戦略」では、基本目標のひとつとして「魅力と活力あふれる大阪をつくる」を位置付けており、その主な事業として、「新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組」を行うこととしている。

大阪市未来都市創生総合戦略（令和6年度～令和10年度）【令和6（2024）年3月策定】

＜基本目標＞

- ①未来を担う人材を育成するとともに誰もが活躍できる社会をつくる
- ②健康で安心して暮らし続けられる地域をつくる
- ③魅力と活力あふれる大阪をつくる
- ④DXの推進を通じてそれぞれの幸せを実感できる都市への成長・発展につなげる

＜基本目標の達成に向けた施策の柱建て＞

- ◆大阪経済の活性化
 - ・大阪・関西万博を契機として、大阪、関西の経済活性化を図るとともに大阪の都市魅力を全世界に発信する

＜アクションプラン＞

基本目標③ 魅力と活力あふれる大阪をつくる

具体的な施策：交流人口・関連マーケットの拡大によるビジネスチャンスの創出

主な事業： ・大阪夢洲でのIR実現 ・新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組

9. 参考資料

参考3

④ Beyond EXPO 2025

- 成長戦略「Beyond EXPO 2025」において、夢洲のまちづくりは、「大阪独自の魅力を発揮したワクワク・オモロいを掻き立てるエンタメ都市」や「成長を支える高度な都市機能を備えた都市」の施策に位置付け、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

Beyond EXPO 2025 ～副首都として成長・発展をめざす万博後の成長戦略～（令和8(2026)年3月）

大阪独自の魅力を発揮したワクワク・オモロいを掻き立てるエンタメ都市

① 夢洲の国際観光拠点化

・世界最高水準の成長型IRの実現（夢洲第1期）

⇒ 国際会議場や展示場、ホテル、レストラン、エンターテインメント施設、カジノ等で構成する世界最高水準の成長型IRの2030年秋頃開業をめざす。世界最高水準の成長型IRの実現を図ることで、大阪経済の更なる成長と観光や地域経済の振興を促進

・万博の理念を継承した夢洲第2期開発

⇒ 第1期区域と連動しながら相乗効果を高めるエンターテインメント機能やレクリエーション機能など多様な機能を有するとともに、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより、国際観光拠点機能を強化

成長を支える高度な都市機能を備えた都市

① 夢洲まちづくり

・夢洲第1期開発（統合型リゾート（IR）を中心としたまちづくり）

⇒ 国際会議場や展示場、ホテル、レストラン、エンターテインメント施設、カジノ等で構成する世界最高水準の成長型IRが、2030年秋頃に開業をめざす

（主な施設内容）

- ・世界水準のオールインワンMICE施設
- ・大阪・関西・日本の魅力を創造・発信する魅力増進施設
- ・日本各地に観光客を送り出す送客施設
- ・利用者ニーズに対応した特色ある宿泊施設
- ・国際的なエンターテインメント拠点をめざす来訪及び滞在寄与施設
- ・世界最高水準の規制の下での公正・廉潔なカジノ施設

（懸念事項対策等のため大阪府・市が設置する施設）

- ・警察署等の警察施設・消防出張所の設置（夢洲）
- ・府域の依存症対策の拠点となる（仮称）大阪依存症対策センターの設置（府内の交通至便な場所に設置予定）

・夢洲第2期開発（万博の理念を継承したまちづくり）

⇒ 万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくりに向けて、夢洲第2期区域マスタープランを踏まえ、開発事業者募集を開始予定

（夢洲第2期区域マスタープランの主な内容）

- ・まちづくり方針 エンターテインメントシティの創造（水・みどりと賑わい等が一体となった「非日常」を感じる空間の創出）、最先端技術の実証・実践・実装など
- ・万博ソフトレガシーの継承 研究成果のショーケース機能、最先端技術の実践・実証、スマートシティプラットフォーム構築などの取組を展開
- ・万博ハードレガシーの継承 大屋根リング、静けさの森の樹木、大阪ヘルスケアパビリオンの利活用
- ・まちづくりDX・GXの推進 IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、安全・安心なまちの実現や都市機能の効率化、最適化とともに、環境技術の活用やグリーンインフラの整備により、持続可能な社会の実現をけん引するまちづくりを推進
- ・エリアマネジメントの推進 開発事業者が主体となり、「まちの活性化」「賑わい創出」「安全安心」などの取組により、まちを「育てる」仕組みを構築

・夢洲第3期開発（第1・2期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり）

9. 参考資料

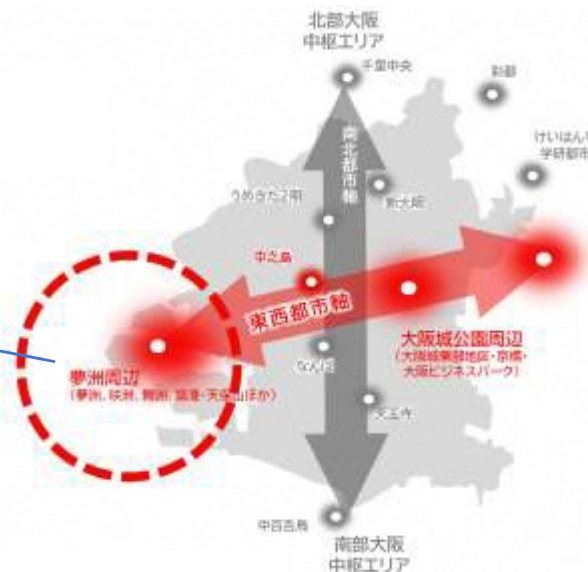
参考4

⑤ 大阪市内バイエリアの将来のあり方に関する懇談会

対象エリア

- ・市内バイエリアを「夢洲周辺地区」として打ち出し
- ・夢洲、咲洲、舞洲、築港・天保山、此花西部など

夢洲周辺の連携強化(イメージ)



i. 懇談会メンバー

- ・ 関西経済3団体
- ・ 大阪府
- ・ 大阪市

ii. 開催経過

- ・ 令和7(2025)年9月10日 第1回 懇談会
- ・ 令和8(2026)年1月21日 第2回 懇談会

9. 参考資料

参考4

⑤ 大阪市内バイエリアの将来のあり方に関する懇談会

iii. 懇談会での主な意見

(第1回)

- ・ 市内バイエリアは、USJ、海遊館、インテックス大阪に加え、今後、夢洲で展開されるIR、夢洲第2期区域に設置される機能等が相まって、世界屈指の集客エリアとすること。
- ・ 観光都市の将来構想という点で、既存の拠点との融合も重要であり、IRとMICEに特定せず広くバイエリアを俯瞰して、国際観光都市を目指すべき。
- ・ バイエリア全体像に係るビジョンとブランディング戦略が重要であり、官民一体となった継続した検討の場の設置が必要。
- ・ 大阪は、関西、西日本の広域観光・広域物流の拠点であることを踏まえ、アクセス向上や交通ネットワークの整備を進めることで観光誘致を強化すべき。
- ・ 大阪は未来社会の実験場という万博の開催地であり、やってみなはれの精神が息づくまちである。チャレンジしたい企業、人材が国内外から大阪に呼び込む形で大阪の活性化に寄与することが重要。
- ・ 夢洲第2期区域については、万博の理念を継承し、ハードレガシーとして大屋根リングを原型に近い形で一部残置するとともに、その周辺に万博の記憶を後世につなげる機能や施設と、緑豊かな環境や憩いの空間を整備し、多くの人に開かれ環境に配慮したエリアとするべき。

(第2回)

- ・ 夢洲全体で万博の記憶や成果を日本世界に向けて発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能を導入してくことを評価する。
- ・ 夢洲第2期区域において、記念公園ゾーンとして、記念館を整備、管理、運営すること、大屋根リングの一部を残置するとともに、周辺エリアを公園等として整備・維持管理することについて、万博のレガシーの継承するうえで大変重要であり、前向きな姿勢だと認識している。後世に残るような施設や機能となることを期待している。
- ・ 万博は非常に影響力のある世界イベントであり、開催地の夢洲は付加価値が飛躍的に上がっている。これを踏まえて、記念公園ゾーンや民間開発ゾーンは万博で生まれた価値・ビジネス・文化交流などの成果を継承するものとしてほしい。

9. 参考資料

参考5

⑥ 大阪のスーパーシティ構想

スーパーシティ型国家戦略特区（令和4（2022）年4月）

- ・スーパーシティは、住民が参画し、住民目線での、未来社会の先行実現をめざすもの
- ・国において大胆な規制改革と併せ、データ連携基盤を活用して複数分野の先端的サービスを提供する「スーパーシティ型国家戦略特区」を設け、令和4年4月に大阪府大阪市と茨城県つくば市が指定（全国で2か所のみ）

大阪スーパーシティ全体計画（令和4（2022）年12月）

「データで拓げる“健康といのち”」をテーマとして、2つのグリーンフィールドで3つのプロジェクトを展開

○2つのグリーンフィールド

- ・夢洲
- ・うめきた2期



出典：大阪スーパーシティ全体計画



○夢洲での2つのプロジェクト

2023年度～

夢洲コンストラクション：3つの円滑化を推進

「建設工事現場内外の移動、建設工事及び資材運搬、建設作業員の安全・健康管理」

2025年度

大阪・関西万博

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」

○夢洲コンストラクション

- ・夢洲では、大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備などの建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取組む。
- ・i-Constructionの取組をデータ（BIM/CIM含む）とデータ連携基盤の活用により一層発展させる。
- ・グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による建設工事の安全かつ円滑な実施を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、将来のまちづくりに活かしていく。

夢洲コンストラクションの3つの柱		
建設工事現場内外の移動円滑化 <ul style="list-style-type: none"> データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導 位置情報及びAIカメラによる車両管理 駅及び公共駐車場からのシャトルバス・デマンドバスの運行管理 	建設工事・資材運搬円滑化 <ul style="list-style-type: none"> BIM/CIMなどを活用した建設工事の効率化 データ駆動センシングによる局所的な気象予測 ドローンによる建設工事の円滑化 シャトルバスを活用した資材運搬(資材運搬) 	建設作業員の安全・健康管理円滑化 <ul style="list-style-type: none"> AIによる顔認証での建設作業員の入場管理 バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理
<p>夢洲コンストラクションで実現した技術やサービスを全国の大規模建設工事を始め、まちづくりに発展的に活用</p>		

出典：大阪スーパーシティ全体計画

○大阪・関西万博

4つの特徴的な先端的サービス、多様な取組

未来社会のショーケース・イメージ

大阪・関西万博会場イメージ図

- ① 近未来の医療・健康サービス
 - 大阪ヘルスケアパビリオンでは、東京都のヘルスケアデータを取得し、未来のフード・ヘルスケアを、パーソナライズされた体験ができるサービスを提供
- ② 自動運転車
 - カーシェアリングの観点からEV(電気)バスなどを導入するとともに、万博会場内でのバス移動の一環として自動運転バス(レベル4相当)を実施
- ③ 空飛ぶクルマ
 - 日本初の空飛ぶクルマの社会実装
 - 大阪市内、関西の主要交通・観光地から万博会場を短時間で結ぶ
- ④ MaaSによる移動の円滑化
 - OSAKA FASTER「ス」(移住)による登録情報の提供や乗換交通プランの案内を実施
 - 万博関連情報の連携による関西MaaSの積極拡充

出典：大阪スーパーシティ全体計画

9. 参考資料

参考6

⑦ 大阪市緑の基本計画〈2026〉

- 緑の基本計画とは都市緑地法第4条に規定されている「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」のことであり、大阪市緑の基本計画〈2026〉は、都市計画事業に基づく都市公園の整備などを対象とするだけでなく、都市計画制度によらない道路や河川などの公共空間の緑化、下水道施設、学校などの公共施設施設の緑化、民有地における緑地の保全や緑化、さらには緑化意識の普及啓発などのソフト面の施策も含めた、都市のみどりに関する総合的な計画である。

大阪市緑の基本計画〈2026〉（令和7（2025）年11月）

- 計画期間 : 2035（令和17）年まで（10年間）
- 対象区域 : 大阪市全域（広域的なみどりの取組については、周辺都市とも連携を図る）
- 緑化重点地区 : 新大阪・大阪地区、なんば・天王寺・あべの地区、大阪城周辺地区、御堂筋周辺地区、中之島周辺地区、夢洲・咲洲・舞洲地区

夢洲・咲洲・舞洲地区の基本方針

市内随一の豊かな自然と調和した
洲ごとの個性を活かしたみどりのまちづくり



■ 夢洲・咲洲・舞洲地区の範囲

※ 主なみどりとしては、地区公園規模以上の都市公園や、「みどりのまちづくり賞」^{128）46）}を受賞したみどりなどを掲載。

夢洲・咲洲・舞洲地区の個別方針

- 個別方針1 地区全体での豊かなみどりの保全・創出
- (1) 豊かなみどりを生み出される緑地等の保全・創出
 - (2) 生物多様性や景観を豊饒した水辺のみどりの保全育成
- 個別方針2 洲ごとの個性を活かしたみどりの創出や活用
- (1) 【夢洲】今後の供用開始と協賛した非日常感を演出するみどりの創出
 - (2) 【咲洲】居住者や来訪者の幅広い利用に対応した多様なみどりの維持・創出
 - (3) 【舞洲】広大な敷地を活用したスポーツやレクリエーションの場としての創活用



■ 自然環境緑地の生き物(左からオオルリ・アカネガニ・ホウロクシギ・ツクシガモ)



■ 夢洲におけるまちづくりの方向性^{128）51）}



■ 大阪・夢洲地区特定複合緑化施設区域のイメージ^{128）52）}



■ 舞洲地区のまちづくり(ゾーニング)^{128）53）}



■ 舞洲緑地

出典：大阪市緑の基本計画〈2026〉

9. 参考資料

参考7

⑧ 道路ネットワーク（広域道路ネットワーク）

- ・ 近畿圏は高速道路ネットワークの整備が進んでおり、車（自家用車・バス等）による近隣府縣市から大阪（夢洲）へのアクセス至便性が高い。
- ・ 既存の高速道路ネットワークに加えて、淀川左岸線（2期）・淀川左岸線延伸部や大阪湾岸道路西伸部、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）が現在事業中であり、今後さらなる広域的なネットワーク機能の向上が見込まれる。

i. 高速道路ネットワーク

- ・ 夢洲へは、阪神高速湾岸線、天保山IC又は南港北ICから10分程度でアクセス可能であり、高速道路からの利便性が高い。
- ・ また、空港（関西国際空港など）など広域交通結節点と近接して高速道路ネットワークが構築されている。

ii. 広域ネットワークの形成

- ・ 既存の高速道路ネットワークに加えて、現在、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）、淀川左岸線（2期）、淀川左岸線延伸部、名神湾岸連絡線、大阪湾岸道路西伸部等が事業化され、これらの整備が完了することにより、大阪の広域的なネットワーク機能が向上する。

- ・ 特に大阪都市再生環状道路として位置づけられている淀川左岸線（2期）及び淀川左岸線延伸部が完了することで臨海部と内陸部の連携強化により夢洲へのアクセス性のさらなる向上が期待される。



9. 参考資料

参考8

⑨ 夢洲アクセス鉄道に関する検討会

- ・ 夢洲における国際観光拠点の形成に向けたまちづくりの状況を踏まえ、夢洲への北側からの鉄道アクセスに係る検討を行うため、有識者や鉄道事業者等からなる「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を開催
- ・ 検討会の意見を踏まえ、答申路線と検討路線（JR桜島線延伸及び京阪中之島線延伸）について、費用便益分析、収支、整備効果による優位性比較等を行い、検討路線が優位であることを確認（令和7年8月に検討結果公表）

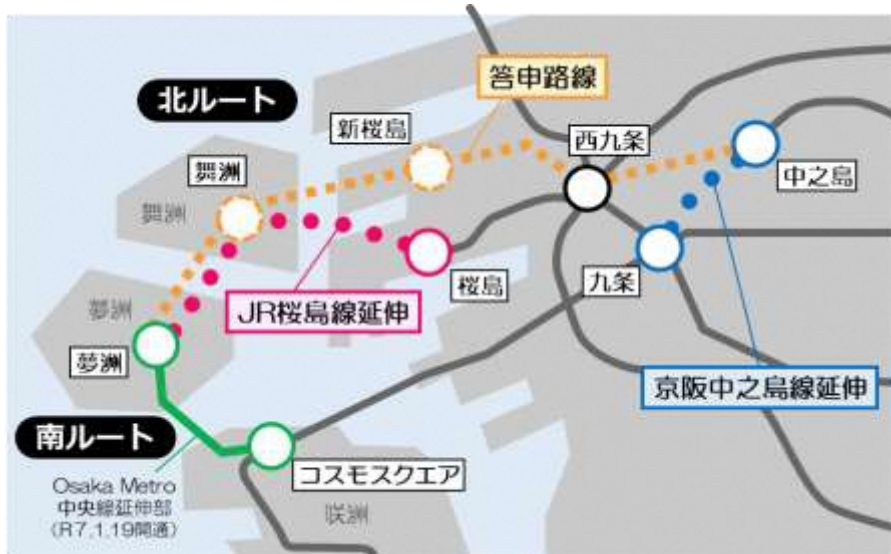
■ 検討対象路線

1) 答申路線※（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）

- ※「運輸政策審議会答申第10号（平成元年）」
- ・ 北港テクノポート線（コスモスクエア～夢洲～舞洲～此花方面）
- 「近畿地方交通審議会答申第8号（平成16年）」
- ・ 中之島新線延伸（中之島～西九条～千鳥橋～新桜島）

2) 検討路線

- ・ **JR桜島線延伸**（桜島～舞洲～夢洲）
- ・ **京阪中之島線延伸**（中之島～九条）



■ 検討項目

- ・ 答申路線と検討路線の優位性比較
- ・ 今後の留意事項 など

■ 検討経過

- 令和6年11月6日 : 第1回検討会開催
- 令和7年3月26日 : 第2回検討会開催
- 7月28日 : 第3回検討会開催

■ 検討体制

《委員》 関西大学 宇都宮浄人 教授
京都大学 松島格也 特定教授

鉄道事業者 { 西日本旅客鉄道(株)、京阪電気鉄道(株)、
(株)大阪港トランスポートシステム、
大阪市高速電気軌道(株)、阪神電気鉄道(株) }

大阪府・大阪市

《アドバイザー》 国土交通省（近畿運輸局・近畿地方整備局）

9. 参考資料

参考9

⑩ 夢洲第2期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査・民間提案募集

- ・大阪・関西万博開催の跡地となる夢洲第2期区域について、万博後速やかに活用できるよう、民間事業者の皆さまから広くご意見・ご提案をいただき、サウンディング型市場調査（マーケット・サウンディング）を実施
- ・下記のとおり、提案が11件あり、ホテル・商業・屋内屋外のエンターテインメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった

夢洲第2期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査（令和4（2022）年12月～令和5（2023）年7月）

○マーケット・リサーチ結果

提 案	11団体、11件の提案
提案団体	建設会社、不動産会社など
提案概要	<p>○開発スケジュール 2期全体のまちづくり計画を策定した上、国際観光拠点のまちづくりを段階的な事業に進めていきたいとの提案があった</p> <p>○提案施設の用途 ホテル・商業・屋内外のエンターテインメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった</p> <p>○基盤整備 観光外周道路の形状に関して、地下鉄の線路上部への整備やまちづくりにあわせた独自形状の整備の提案があった</p> <p>○関連事項 ・まちの骨格となるオープンスペースの整備 ・モビリティサービスの中核機能の整備 ・まちの移動手段として、域内周回バス、マイクロモビリティ、ゴンドラ ・スマートなまちづくりを担うエリアマネジメント組織</p>



9. 参考資料

参考10

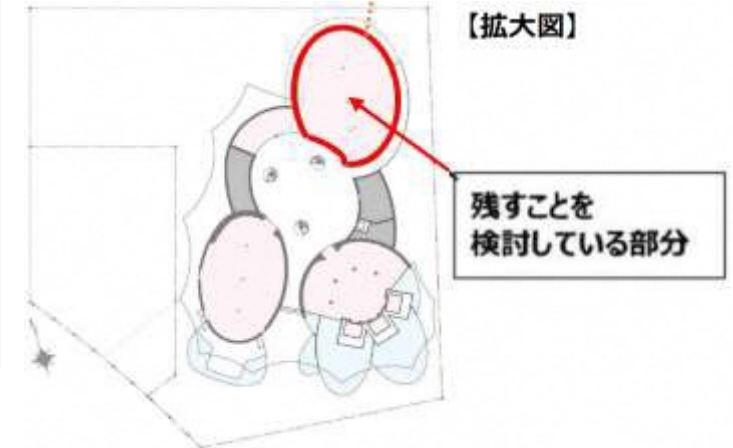
⑪ 万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング

- ・大阪ヘルスケアパビリオンについては、令和4(2022)年3月に策定した「日本国際博覧会大阪パビリオン出展基本計画」において、建物の一部を残すこととしている。
- ・2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会では、万博閉幕後の建物を利活用する事業内容や事業条件を募り、最新の市場性を確認することを目的にマーケットサウンディングを実施した。

万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング (令和6(2024)年1月～4月)

○マーケット・リサーチ結果

ヒアリング参加者	2者(開発事業者等)
提案概要	<ul style="list-style-type: none">○活用する部分<ul style="list-style-type: none">・大阪ヘルスケアパビリオンの「残すことを検討している部分」を建物として残置○活用の用途<ul style="list-style-type: none">・最先端医療技術の情報発信を行う施設・外国人観光客向けに予防医療を行う施設○その他<ul style="list-style-type: none">・提案の実現にあたっては、収益施設を隣接して設け、一体的に運営することにより、事業性を確保する必要があるとの意見あり・周辺の道路計画等を踏まえた敷地の設定及び歩行者動線や眺望の確保など、夢洲第2期区域のまちづくりへの要望もあり



9. 参考資料

参考11

⑫ 夢洲第2期区域マスタープラン策定に向けた民間提案募集

- ・ 夢洲第2期区域については、約50ヘクタールという広大なエリアであることから、マスタープラン作成にあたり、民間事業者のノウハウを活かした実現性の高いものとするため、民間提案募集を実施。

1) 対象エリア

- ・ 夢洲第2期区域（大阪ヘルスケアパビリオンを利活用するエリアを除く）



2) スケジュール

- ・ 2024年9月9日 募集要項の公表
- ・ 2024年11月11日から15日 提案書の受付

3) 優秀提案の決定

- ・ 提案件数：3件
- ・ 優秀提案：2件（最優秀提案については決定せず）

① 優秀提案1

- 提案者：夢洲第2期区域開発基本構想検討会
- 構成員：株式会社大林組大阪本店（代表企業）他6社*提案者の意向により、一部非公開

② 優秀提案2

- 提案者：夢洲まちづくり提案グループ
- 構成員：関電不動産開発株式会社（代表企業）京阪ホールディングス株式会社 住友商事株式会社、株式会社竹中土木 南海電気鉄道株式会社 吉本興業ホールディングス株式会社

4) 優秀提案の概要

優秀提案1（提案者：夢洲第2期区域開発基本構想検討会）

【概要】国内外からの集客が見込まれる大型アリーナ、モータースポーツ関連施設に加え、車をテーマとしたアミューズメントテーマパーク、ラグジュアリーホテルなどの機能を複合的に導入



【土地利用計画図】



優秀提案2（提案者：夢洲まちづくり提案グループ）

【概要】特徴的なラグジュアリーホテルやウォーターパークによる複合リゾート施設を中心とし、駅前においては賑わいを創出する商業機能などを複合的に導入

【パース】



【土地利用計画図】



9. 参考資料

参考12

⑬ 夢洲第2期区域マスタープラン検討会について

i. 検討の目的等

《 検討会の目的 》

夢洲第2期区域のまちづくりの方針となる「夢洲第2期区域マスタープラン」（以下「マスタープラン」という。）を府市が策定するにあたり、外部有識者の意見を聴取するため、「夢洲第2期区域マスタープラン検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

《 意見を聴取する事項 》

- (1) マスタープラン策定にかかる検討に関する事項
- (2) その他、検討会の目的達成のために必要な事項

ii. 開催概要

《令和6年度》

○第1回マスタープラン検討会（令和6(2024)年12月23日）
「夢洲第2期区域マスタープラン素案」の策定方針 など

○第2回マスタープラン検討会（令和7(2025)年1月22日）
「夢洲第2期区域マスタープラン素案」について など

《令和7年度》

○第1回マスタープラン検討会（令和8(2026)年1月7日）
「夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）」について など

《令和8年度》

○第1回マスタープラン検討会（令和8(2026)年4月28日） 書面開催
「夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）」について

9. 参考資料

参考13

⑭ 大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会

i. 検討会メンバー

- ・ 2025年日本国際博覧会協会
- ・ 経済産業省
- ・ 大阪府
- ・ 大阪市
- ・ 日本経済団体連合会
- ・ 関西経済連合会
- ・ 大阪商工会議所
- ・ 関西経済同友会

※ 事務局：2025年日本国際博覧会協会

ii. 開催経過

- ・ 令和7(2025)年5月2日 第1回 検討会
- ・ 令和7(2025)年6月3日 第2回 検討会
- ・ 令和7(2025)年6月23日 第3回 検討会
- ・ 令和7(2025)年9月16日 第4回 検討会

iii. 第4回検討会での結論（検討会での総意）

- ・ 大屋根リングは「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとなる建築物であり、レガシーをわかりやすく残すという観点から、第2期区域の北東部約200mを原型に近い形で残置することが望ましいとの結論を得た。
- ・ 今後、2025年日本国際博覧会協会が提供する大屋根リングの部材の状態に関するデータを大阪市が確認することを前提に、大屋根リングとその周辺エリアについては、大阪府・大阪市において万博を記念する公園・緑地等として整備、維持管理することを検討し、議会の議論を経て決定する。
- ・ また、残置する大屋根リングとその周辺エリアの整備・維持管理に要する財源については、大阪・関西万博の会場運営費の剰余金が発生する場合には、その活用を検討するとともに、国の協力を得て地方創生交付金等の国の交付金や補助金の活用の検討、大阪府・大阪市の負担の検討、協力いただく個別企業を探すなど、関係者が真摯に検討し、確保する。

9. 参考資料

参考14

⑮ 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会

i. 委員会メンバー

<委員>

- 十倉 雅和 2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>
- 池坊 専好 華道家元池坊 次期家元
- 五神 真 理化学研究所 理事長
- 佐野 真由子 京都大学大学院 教授
- 西尾 章治郎 国際高等研究所 所長
- 藤本 壮介 大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
- 藤原 紀香 日本館 名誉館長
- 宮地 純 リシュモンジャパン合同会社 カルティエ プレジデント&CEO
- 山極 壽一 総合地球環境学研究所 所長

<関係者>

- 吉村 洋文 大阪府知事
- 横山 英幸 大阪市長
- 松本 正義 関西経済連合会 会長
- 鳥井 信吾 大阪商工会議所 会頭
- 小林 健 日本商工会議所 会頭
- 國部 毅 2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
- 石毛 博行 2025年日本国際博覧会協会 事務総長

(五十音順・敬称略)

ii. 開催経過

- 令和7(2025)年12月25日 第1回 成果検証委員会
- 令和8(2026)年2月27日 第2回 成果検証委員会
- 令和8(2026)年4月27日 第3回 成果検証委員会

9. 参考資料

参考14

⑮ 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会

iii. 委員会での主な意見

(第1回)

- ・ 跡地開発で大屋根リングや静けさの森を残す方針はありがたい方針であるが、「場所の記憶」が大事。【藤本委員】
- ・ 万博に来場できなかった人々にもレガシーを還元する仕組みが重要。【池坊委員】
- ・ 多様でありながら一つというレガシーを作ったということの後世に残す上で、大屋根リングと静けさの森は欠かせないもの。【山極委員】
- ・ ソフト面のレガシーも不可欠で、万博で披露されたライフサイエンスやカーボンニュートラル、空飛ぶクルマなどの新技術を社会実装するための仕組みが必要。【吉村知事】
- ・ 大屋根リング約200mの残置と都市公園の整備は、レガシーを展開していく重要な役割を果たしていく。【横山市長】
- ・ 万博で生まれた知や価値を散逸させず、外交・ビジネス・文化交流などを統合する「場」のあり方を検討すべき。【鳥井会頭】

(第2回)

- ・ 夢洲が新たな交通の要衝の地である。【山極委員】
- ・ 万博のレガシーを社会に根付かせていくためにはその理念を想起させるイベントの継続開催が不可欠。【西尾委員】
- ・ 持続可能な未来社会の実現に向けて、万博の理念を継承し、その成果を関西、日本の成長につなげていくため、具体的な行動に移していくことを経済界の総意。【松本会長】
- ・ 跡地開発は、夢洲2期と3期などに分かれているが、大屋根リングは3期区域にあったウォータープラザにオーバーラップして建てたことから、2期と3期というエリアを越えて、全体像として跡地開発のビジョンを事業者に提案してもらうことも可能にするか、その方向で議論していくことなどをマスタープランに明記してほしい。【藤本委員】
- ・ 剰余金をどう使うかの観点では、大屋根リングの一部残置、会場跡地でレガシーを発信する取組、最先端技術の実装化を後押しする仕組み、国際的なイベントや会議の継続開催が重要。【吉村知事】
- ・ 夢洲2期区域においては、万博の成果を継承し、音楽、アート、先進技術といった多様な取組の展開と交流の促進を図るとともに、国内外への情報発信に取り組みたい。大阪府・市が中心となり、記念館や公園を整備し、周辺の民間開発エリアと合わせて万博のわくわく感を再現することで、万博のレガシーを日本、世界に発信する拠点としたい。【横山市長】
- ・ 開催地である夢洲をレガシーの発展・継承の拠点にするべき。【十倉座長】

9. 参考資料

参考14

⑮ 2025年日本国際博覧会 成果検証委員会

iv. 大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針（第3回 2025年日本国際博覧会成果検証委員会資料より）

- 万博の成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぐために、(1)万博で創られた「つながり」の拡大・発展、(2)万博を契機とした創造活動の深化・展開、(3)夢洲の「場の記憶」の継承・展開、の3つの取組の柱でレガシー展開を進める。

(1) 万博で創られた「つながり」の拡大・発展 ※■ 双方にまたがるもの（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）

- 万博では、多様な主体が連携した技術・社会実証や海外とのビジネスマッチングなどの経済面でのつながりに加え、来場者や運営管理者も個々に海外とのつながりを構築した。また都市間レベルでも新たな海外ネットワークを拡大した。これらをさらに発展させ、つながりを広げていく。

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ■ 最先端技術等の実装化・産業化 | ■ 国際交流プログラム |
| ■ JETROによる海外との連携・展開支援 | ■ 万博に関連した広域観光促進 |
| ■ 海外若手研究者や専門人材との知的交流を促進 | |

(2) 万博を契機とした創造活動の深化・展開

- シグネチャーパビリオンやテーマウィークなど、万博を契機に新たな理念や価値を創造した活動を、一過性のものとせず、さらにアップデートを加えながら継続していく。そして、子どもたちなど将来世代や会場に足を運ぶことの出来なかった人々が、そうした活動を体験できる機会をつくっていくとともに、次期以降の万博に引き継ぎ、国際的にも発信を続ける。

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ■ 未来世代の価値体験機会を拡大 | ■ 次期以降の万博出展・イベント等を通じた海外への展開 |
| ■ 全国各地でのイベント展開 | ■ 将来の万博開催を見据えた国際社会へのレガシーの還元 |

(3) 夢洲の「場の記憶」の継承・展開 ※■ 大阪・関西ワイドで取り組むもの（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）

- 夢洲の会場で育まれた共創の記憶と熱気は、多くの人々の心に深く刻まれている。万博の跡地として開発される「夢洲」において、記念公園ゾーンの整備やソフトコンテンツを活用したイベント等を通じて、こうした「場の記憶」を継承・展開し、観光誘客の拡大・地域振興にも繋げていく。
- 大阪府・大阪市により進める万博跡地（夢洲第2期のみならず、その周辺区域を含む）のまちづくりのベースとなるマスタープランにおいて、夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」として位置づけ、リングや静けさの森に象徴される「場の記憶」を継承し、夢洲全体で官民が一体となって万博の記録や成果を日本・世界へ発信する機能の導入を目指す。

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ■ 記念公園ゾーンの整備 | ■ 記念公園での文化・芸術イベント |
| ■ ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等） | ■ 万博に関連した広域観光促進 |

■ グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの ■ 大阪・関西ワイドで取り組むもの ■ 双方にまたがるもの